



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.31 No.4 (No.120) Oct. 1998

自学自習の達人になろう —トレーニングセンターとしての図書館—

医学部 小杉 忠誠

21世紀をむかえるにあたって、図書館が大きくその姿を変えようとしている。従来より教育、研究等の学術情報センターとして位置づけられていたが、洪水のごとく流れている学術情報の中から、図書館に既に常備されているものを利用するだけという姿であった。スーパーマーケットに揃えられている商品の中から、選び出して利用するのが大方の利用者の姿勢であったと思う。全国の図書館は、挙って品揃えに凌ぎを削っていた。そのため、琉大図書館も他大学並みに

充実させるのを目標に活動していた。特に国立大学においては、その大学の規模に応じて図書館の面積、予算規模等がランク付けされているという背景がある。「無差別平等性」に安心感を求め、「図書館の充実」を他大学よりも図書・雑誌数を多く集めることだと錯覚していた時期もあろう。大学関係あるいは地域社会の利用者側からの、現実的な要求とは掛け離れていかざるを得ない構造になっていた側面もある。

本来、図書館は学生、教員、研究者が「問題

目

自学自習の達人になろう
—トレーニングセンターとしての図書館— 1
琉球大学附属図書館のあゆみ —4— 4
沖縄県大学図書館協議会総会 9
海外衛星放送受信局一覧表 10
NACSIS-IR地域講習会の開催 12
西原南小学校の見学について 12

次

沖縄関係資料新着案内 13
本学教官著作寄贈図書案内 17
お知らせ 17
図書館事情 18
医学部分館だより 19
図書館映画会 20

附属図書館のホームページ (<http://www.lib-u-ryukyuu.ac.jp/>) もご覧下さい。

解決」にむけて「自学自習」のための情報を集積している場所である。したがって、利用者側に「問題解決」の意図がなければ、「自学自習」の場所としての図書館は寂れる一方であり発展しない。学生に限ってみれば、知識伝授型の授業の受講者としては達人であるが、問題発掘型、問題解決型授業の受講者としては、全く未熟者である。教員においても、知識伝授型の授業は「達人」であっても、問題発掘型、問題解決型授業では未熟者である。このような状況下では、学生も教員も図書館の本来的機能の向上には寄与し得ないものになっている。しかし、創造性豊かな研究者は、現在に至るまで図書館機能の向上には充分寄与していたかもしれない。情報化時代の最盛期に突入してきた現在、「図書館機能とは何か」が再吟味されている。「自学自習」のための情報は、図書館に装備されているものの利用からばかりでなく、図書館以外の利用によっても豊富に得られるようになってきた。これは授業においても同じ傾向にある。琉大の教員だけからしか学生が専門的基本的知識を得られないということもない。SCS、放送大学等の遠隔授業も図書館機能の一部として作動しており、他大学の教員からもこれらの知識を得ることができる。情報化時代の到来により、電子化図書館となるのもそう遠い将来のことではない。冊子体が図書館から消え去る時代も来るであろうが、古めかしい冊子体を眺めながら、図書館で勉強した思い出のある教員にとっては、寂しいことでもある。私自身も「旧きを尋ねて新しきを知る」という言葉を実感できたのも、図書館での文献検索から得られた論文を読んだからである。最新の学術情報を得るようになれば「新しきを尋ねて未来を知る」ことになるであろう。図書館に行けば、世界中、日本中を走りまわっている学術情報を一時自分の手元に止めて眺めることができる。自分の発信した情報が、世界中、日本中を走り回っているのを見つけたときは、感激するであろう。学生もホームページを作り、基礎研究、卒論、調査研究等の成果を図書館に持ち込む（図書館のHPからリンクを張ってもらう）のはいかがでしょうか。ある大学では、学生のホームページ作りを教員が指導し、他大学の学生、教員からもアクセスし

て、それを読むことができるようになっている。

「自学自習」を推進する試みとしての授業形態に、「チュートリアル学習」がある。これは少人数でのグループにチューターが配属されて行うものですが、チューターは、基本的知識を講義するのではなく、問題解決のための方法、知識修得方法を助言するに過ぎない。このような授業形態では、学生にとって最大の味方となるのは図書館です。図書館に集められ、接続されている学術情報を効率よく的確に入手することにより、「チュートリアル学習」の効果が最大限に得られます。図書館の職員の方は、広義でのチューターであらねばならないのです。情報の検索、入手方法に熟知し、それを指導できることがチューターの必要条件になると思います。図書館の職員の方も教員と共同して、学生の「自学自習」能力の向上に一役買って頂かなければならないのです。図書館の事務機構の改変も不可欠ですが、図書館事務の簡素化、効率化を計って時間的余裕を作り、図書館側にも自然科学、人文科学系、それぞれの分野の情報検索、入手方法の達人や専門家を養成すべきではないでしょうか。教員も図書館職員も、教育、学術研究の支援体制における創造性がなければ、学生や若い研究者に創造性を育む教育、研究環境を提供することはできないと思います。「チュートリアル学習」を採用するにあたって、トレーニングセンター（図書館）にグループ学習の行えるカンファレンス室等を多数用意する必要があります。電子化図書館への移行の際は、これらのスペースを確保するための方策を考えるのに好機であると思います。21世紀にむけて図書館機能の充実、まさに「自学自習」を行える学生、社会人の養成には必須であり、現時点では自学自習、問題解決型学習を担う学生のためのトレーニングセンターとしての機能を十分に備える必要がある。「自学自習」の達人になるためには、単に読むだけではなく、視る、聴く、書くの作業が必要になってきます。そのためには、視聴覚学習機材の設置が不可欠となります。図書館には、それらの機材が全て集約されているとは言い難いのですが、ビデオ、フィルム教材が現在でもかなり整備されています。しかしながら、学生にはそれらについての情報

が充分に入手できていないのではないかと危惧されます。図書館に収蔵されている「自学自習」用の機材を広く学生に知らせる手段を考えてはいかがでしょうか。学部学生（低学年、高学年）用、大学院生用、教員用、社会人用のPR誌を別個に創刊するのも一案だと思います。

さて、トレーニングセンターとしての図書館には、トレーニングプログラムが必要となります。電子化図書館への移行が将来見込まれるのを背景にして、いろいろなテーマの課題を学生に与えて、その課題の解決にむけての情報収集、分析を行わせ、その結果をホームページにのせる等を行うのも一案である。このとき、インストラクターが必要となりますが、教員がインストラクターになるよりは、高学年学生、大学院生等がインストラクターになり、後輩を指導するのが良いと思います。このインストラクターは、立派なティーチングアシスタント、リサーチアシスタントの資格をもてると思います。各学部学生のためのインストラクターを、各学部から推薦してもらい、トレーニングセンターに配置しこれらインストラクターには、若干の経済的援助、奨学金を貸与すべきです。トレーニングプログラムの作成や、その評価等を研究する「研究室」の設置が必要となります。研究室の構成員としては、教員、学生、図書館職員、社会人利用者を加えた組織とすべきであろうと思います。この「研究室」からは、「自学自習」の達人になるためのトレーニング方法の良いプログラム等の開発やそれに関する情報が発信される。教育の実施者である教員は理念のみを先行させ、支援体制整備の重要性に配慮してこなかったまづい現実があり、支援体制への規制のみで運用しようとする安易さがあつたのは否めない事実である。このような反省に立つとき、教育、研究の支援体制の代表的なものである図書館は、創造性のある若者を育成するためには、教育を受ける学生の「自学自習」訓練の場としても、積極的、能動的、開放的に機能せざるを得ない状況にあると思います。教育は教員のみが一方通行的に知識伝授型の教育を行うのではなく、学生、支援体制機構、社会人等との双方向性のもとに、さらにはそれらの結果を統合して行わなければならない。これらの関係性も認

識できる訓練所としての図書館は、その重要性をますます増大してきている。教育、学術活動における図書館機能の有効性の顕在化は、21世紀にむけて学術のパラダイムを転換する大きな契機となるであろう。

次に大学院生、研究者、教員の研究活動の支援体制としての図書館の役割は、従来より今日まで大きく変わってはいない。しかしながら現代社会においては、大学の研究成果は社会への還元性や利用性において、社会的評価結果に密接に関連している。言い換えれば大学の研究成果は、大学の空間だけにのみ生きつづけることは不可能となっている。研究成果の公開性により、その成果に対する社会からのフィードバックがその研究の発展性には不可避となっている。琉球大学の研究情報を広く社会に公開する任務も図書館は担っている。地域社会への発信だけではなく、外国への各研究領域機関の発信源として、研究者の支援を担うべきである。これらを効率よく行うための「情報発信学研究」を図書館側は行う必要があり、また発信の支援を行う必要がある。それぞれの研究成果が、琉球大学固有の情報発信源となるように研究支援を行うべきである。情報入手はもっぱら欧米依存型体質であり、それらからの脱却の必要性と欧米からの情報入超への対応、対策をいかに行うかが重要となる。研究者からの図書館への要求は、個別的であり、先進的研究分野であればある程、例外的ともいえる「情報」が要求されてくる。利用者側からの要求との不一致性が常におきうる。このような問題を十分にフィードバックし、これら研究者への要求にも充分答えることのできる体制を構築すべきである。「自学自習のトレーニングセンター」と「先端、先進的、独創的研究への支援」の両面を持っている図書館の運営は、非常な困難を極める可能性がある。特に、国立大学の経営的な視点でみるならば、これら2種の支援内容を完璧に遂行するならば、莫大な経済的基盤を必要とするであろう。大学図書館間の機能分担も、経済的視点から当然導き出される解決策であろう。21世紀にむかって琉大「図書館」の斬新な再構築が、急務となっていると思う。

（こすぎ ただよし：生理学第一講座教授）

琉球大学附属図書館のあゆみ —シリーズ④—

豊平朝美

充実期（1970年代）

前号でも述べた通り、昭和47年5月15日の琉球大学の国立移管に伴い、文部省より昭和47年度から格差是正費が附属図書館に配分され、昭和51年度まで5ヶ年間継続した。また、米国統治下の戦後資料(米国民政府*資料いわゆるUS CAR資料)の収集のために昭和46年4月に琉球大学戦後資料収集委員会が設置され、同委員会と米国民政府首脳との間で事務折衝を継続して戦後資料の入手が実現した。資料の収集は同委員会と図書館側が協力し、実際の資料の複写は図書館側が担当した。その事業に対し、文部省から昭和47年度から昭和49年度の3ヶ年間にわたり、特別援助を受けたことにより、60万枚に及ぶ資料を複製することができた。また昭和52年度より新たに沖縄関係文献資料保存事業費がほぼ毎年本省より配分を受け、沖縄関係資料収集の整備、充実が図られてきた。

一方、図書館業務の機械化に向けて、外部より講師を招いて研修会を開催したり、館内にコンピュータ研究会を設置して、本格的に図書館業務電算化の検討をはじめた。「琉大風土記」によれば、狭あい化の著しい首里キャンパスではこれ以上の発展は望めないことから、国立移管を目前に新キャンパスへの移転統合が急務となった。1965年5月27日、学部学科及び附属施設の整備充実、医学部その他研究機関等の設置計画に対応するために必要な大学用地の確保に関する学長の諮問機関として、施設拡充研究委員会が設置され、同委員会は大学用地候補地として三地域を選定、数回の調査、討議の結果、1965年11月4日に「宜野湾、中城村、西原町の接点地域」（現在の千原キャンパス）を決定した。図書館も新キャンパスでの新図書館建設に向けて建築場所、規模等具体的取組みをはじめたことは前号で述べた通りである。

*米国民政府（沖縄統治のための米国政府の出先機関）正式名称は琉球列島米国民政府で1950年12月15日にそれまでの琉球列島米軍政府

を廃して、沖縄の長期的統治のため新たに設立されたもの。1949年7月25日、沖縄民政府が佐敷村新里(知念地区)から那覇市の上之山国民学校(現上山中学校)に移転、1949年11月21日に沖縄民政府が天妃国民学校(現在の天妃小学校跡)に移転すると、同年11月12月1日に米軍政府が玉城村親慶原から上之山校に移転してきた。米国民政府は当初(1950年代)は上之山校跡にあったが、1953年(昭和28)4月28日に琉球政府行政ビル(現在の沖縄県庁舎)が落成すると同時に同ビルに入居、沖縄の日本本土復帰前の1968年(昭和43)1月8日、浦添市小湾に移転、復帰の前日の1972年(昭和47)年5月14日に消滅した(照屋栄一著「沖縄行政府機構変遷史料より引用」)。



米国民政府庁舎玄関（現在の上山中学校跡）



米国民政府庁舎全景（同上）



沖縄群島政府（現在の天妃小学校跡）

◎沖縄関係研究資料のマイクロ化

本学図書館の沖縄関係収集に深く関わってきた主な教官の一人に我部政男氏（現山梨学院大学法学部教授）がいる。我部氏は近代日本史、沖縄関係学を専門に昭和49年以降、国立公文書館を中心に国立国会図書館憲政資料室、宮内庁書陵部、東京大学法学部明治新聞雑誌文庫、外務省外交史料館、防衛庁戦後史史料室、総理府統計局等を訪ね、明治期の沖縄に関する公文書など膨大な資料の調査・収集を行ってきた。収集対象資料は業者にマイクロ化を委託し、本学図書館に受入れた。（我部政男編著「日本近代資料・近代沖縄関係学資料調査・収集マイクロフィルム目録」参照）

◎明治新聞雑誌文庫所蔵資料の寄贈

昭和57年1月21日、東京大学の明治新聞雑誌文庫所蔵資料の管理替譲渡をうけた。内容は現在本館の1階新聞室、書庫に保管されている戦前の法規分類大全（慶応3年より明治23年に至る中央政府の法令等公文書を集大成した資料集）、官報（明治19年より同45年までと昭和3年より19年までの分を製本したもの）、東京日日新聞（後の毎日新聞、大正2年より昭和37年までの分、昭和18年以降は毎日新聞と改題）、東京朝日新聞（昭和5年より26年までの分、何れも製本済のもの）等である。

北根氏は「他大学より是非譲って欲しいという要請があったが、先の大戦であらゆる資料を消失した沖縄に贈りたいと前々から考えていたが、（琉大に譲渡したのは）琉大の我部政男教授、比屋根照夫教授の資料収集に対する情熱と熱意を目のあたりに見て、感動したからだ」とのべている。（「図書館年報」（昭和56年度）より引用）

我部氏は、東京大学法学部明治新聞雑誌文庫の北根豊氏について「北根氏は東京大学への働きかけでこれら資料を本学へ送ってくれた恩人である」と述べている。

◎沖縄関係研究資料収集 （昭和50年度）

沖縄研究資料の複写収集は年次的に実施していくため、「沖縄研究資料複写計画表」を作成し、他の図書館の蔵書目録等で調査して年次的

に進められた。当時参考調査係であった仲西盛秀氏によって、昭和50年度の図書館年報に収集内容を詳細に報告されているのでその概略だけ述べたい。

仲西盛秀氏によると昭和50年度（1975）に収集したものは730冊5,761,500円で主なものは下記のものであり、特に文献複写の所在調査、複写依頼の折衝等は大部分は我部政男短大部教授に負い、我部氏の東京での研修中の合間に献身的に協力したとのことである。その他の外部の協力者についての詳細は「びぶりお」9巻2号も参照されたい。

①防衛庁戦史資料室所蔵資料

防衛庁の戦史資料室に収蔵されている沖縄戦に関する300点の資料のコピーである。内容は沖縄戦で沖縄配属の各部隊が大本営（戦前天皇に直属する軍の最高の統帥部）に報告した資料つづりや沖縄戦の後、米軍に收容され、その後日本政府に返還された「返還文書」がある。

②山下久四郎文庫所蔵資料

「山下久四郎文庫」は、大正・昭和初期の糖業関係の資料で、原資料は所有者の山下氏から沖縄県立図書館に寄贈され、「山下文庫」として同館に保存されている。当館は所蔵機関の沖縄県立図書館の協力でその中の一部を複製している。

③外務省外交史料館所蔵資料

主として明治5～7年外務省管轄時代のものと明治期の琉球の帰属をめぐる日清外交交渉関係とに大別できる。

④東京教育大学附属図書館所蔵資料

沖縄の古謡「おもろさうし」関係で「沖縄祭歌（全）」及び「蔡氏家譜」など約20点の資料である。

⑤笹森儀助文書

笹森儀助（1845-1915）。明治中期の探検家、島嶼研究家。明治26年6月、49才で琉球探検の旅に出て、その著書「南島探検」は北は奄美大島から南は八重山与那国までの見聞録をまとめたもの。「大島郡雑記」他9点は、笹森儀助文書として青森県立図書館に所蔵されているものから沖縄に関するものを抜き出して複写した。笹森儀助関係の資料は日本常民文化研究所、青森県立図書館、流通経済大学図書館、東京水産

大学図書館等に分けられ保管されている。

⑥日本常民文化研究所所蔵資料(祭魚堂文庫)

「八重山取調書」他10点がある。実業家の渋沢敬三(雅号祭魚堂)(1896-1963)は民族学者、生物学者としても知られ、私財を投じて日本常民文化研究所を主宰したほか、多くの研究者の助成に努めた。

(昭和51年度)

昭和51年度の複写収集は前年に引き続き、①沖縄県立図書館所蔵「山下久四郎文庫」の奄美大島関係文書、②東京大学法学部所蔵「琉球評定所記録(琉球王国時代の行政文書)」、③外務省外交史料館所蔵「琉球藩諸条約他」、④早稲田大学所蔵「大隈文書」等があり、その他の機関として国立国会図書館、国立公文書館、内閣文庫がある。沖縄の戦後社会事情を知る上で必要なワトキンス*文書 (James T. Watkins: Okinawa Papers Deposited)があり、その購入においては本学比嘉幹郎教授の協力があった。

*ワトキンスは沖縄戦直後の海軍軍政府政治将校(1945.6.25-'46.6.31)。海軍軍政府副司令官チャールズ・I・ムーレー大佐のもとで、戦後最初の住民行政組織で米軍諮問機関であった沖縄諮詢会の設立・運営に尽くす。ワトキンス文書は当時の米軍沖縄統治資料。(「びぶりお」10巻1号、「図書館年報」(昭和51年度)参照)

(昭和52年度)

沖縄関係文献保存事業費として予算がつき、本館で作成された「沖縄研究資料複写収集3年計画」にもとづき他機関の所蔵する沖縄関係研究資料を収集した。その内訳は以下の通りである。県外機関からは、①鹿児島県立図書館所蔵の「奄美群島の地誌、民俗、歴史等に関する資料等約80点」、②鹿児島大学所蔵「琉球渡海人数賦他21点」、③九州大学附属図書館所蔵「琉球国使節来朝図他5点」④国立国会図書館所蔵「明治31年4月-大正7年5月までの琉球新報等県内新聞紙他29点」⑤東京大学附属図書館所蔵「新井白石著琉球国事略7点」⑥宮内庁書陵部所蔵「琉球人來使記他3点」等、県内機関からは、①琉球政府立沖縄資料編集所「復帰協-

復帰運動関係資料:総目録10点」及び他2機関の資料と個人所蔵資料がある。(「びぶりお」11巻1号、「図書館年報」(昭和52年度)参照)

◎戦後資料収集調査委員会

山田勉氏の「戦後資料収集調査委員会活動概要報告によると下記の通りである。

1967年12月5日、佐藤首相が国会の所信表明演説の中で3年以内に沖縄返還の時期について日米両国間で合意に達するよう努力することが強調された。これを契機に琉球大学内に「米国の琉球統治」に関する資料を収集しなければならないという気運が起こってきた。1969年11月17日に訪米した佐藤首相とニクソン大統領との日米首脳会談で沖縄の日本本土への復帰が1972年と共同声明が発表され、「米国の沖縄統治資料」の調査収集を具体的に進めなければならないと言う声が学内からあがった。1970年6月20日に琉球列島高等弁務官ジェームス・B・ランバート中将と本学池原貞雄学長、宮里政玄法政学科教授との懇談の結果、米国民政府に統治資料を提供する意志があり、同年7月8日付けで池原学長よりランバート高等弁務官あて公式に資料提供の要請を行なった。フィアリー民政官、カーナー行政部長と折衝を行なうと同時に全学的立場で責任ある委員会を設置して強力な折衝をすべきであるとの声があり、1971年4月28日に「琉球大学戦後資料収集調査委員会」が設置された。5月13日に第1回の委員会を行い、委員長に宮里政玄教授を選出して活動を開始した。委員は宮里氏の他、久場、山城、島袋、加納、大屋、宮城、野原、我部、比屋根、保健学科の桜井(後に赤松氏に交代)各氏及び、図書館の新井(後に山田に交代)氏であった。米国民政府との折衝は当初の合意にも拘らず難行した。機密文書(国防、軍事、外交関係)はできないとか米国国立公文書館の許可がないとできないとかあって、最終的に琉球政府行政首席名でフィアリー民政官に働きかけた結果、琉球大学が入手希望、または複写希望の資料を民政府に提出し、それにもとづいて米国国立公文書館の許可を得ることになった。複写資料は秘密文書を除いて、委員及び教官の選択した資料をゼロックスコピーした。民政府所管の文書は3,780万枚

と推定され、その中から、機密文書を除き琉球政府文書を含む60万枚を複製した。内容は昭和47年度は民政府資料、復帰準備委員会資料、裁判所記録、昭和48年度は米国民政府裁判所記録、全軍労資料、個人所蔵資料、米・琉政府往復文書その他、昭和49年は米・琉政府往復文書、県議会図書室資料、個人所蔵資料であった。米国民政府琉球政府往復文書は沖縄県資料編集所所蔵のマイクロフィルムから、個人所蔵資料は琉球大学教官の宮里政玄、仲宗根勇、宮城真宏、大屋一弘、城間理夫の5氏から提供して頂いた。那覇地方検察庁に移管された民政府裁判記録および個人所蔵の文書等複製を含めて戦後資料の収集は昭和49年度に終了した。(「図書館年報」(昭和49年度)及び「びぶりお」8巻4号参照)

戦後資料複製計画は1971年(昭和46)10月からの予定であったが、予算の問題があって実際の複製事務は昭和47年6月から開始された。民政府文書室にゼロックス機を2台設置して、附属図書館の新井整理係長(委員)をキャップに複製作業は図書館非常勤2名で終日行なった。当時のキャップの新井氏によると USCAR 資料は民政府文書処理担当官ジョン・O・ローチ二世が米公文書館に送るものとそうでないものを選別をして、残った資料を本学の教官が選択したとのことである。実際に複製を担当した一人の盛島明哲氏(現県立図書館勤務)によると無数のダンボール箱の中に入った資料からローチ氏が選別をし、彼の許可したものだけを複製したと述べている。戦後資料は昭和49年6月より製本を含めて整理事務は山田氏(図書館参考調査係長)が引き継いだ。仲西盛秀氏(当時参考調査係)によると60万枚近い戦後資料のうち、米・琉政府往復文書500巻(約125,000枚)の製本準備に追われ、戦後資料には書名がなかったので山田氏が統一書名をつけて、製本リストを仕上げたとのことである。

①沖縄研究資料調査収集小委員会

昭和57年3月15日沖縄研究資料の整備をはかるために、附属図書館運営委員会の下に、学内の教官10名で構成された沖縄研究資料調査収集小委員会(委員長我部政男教授:政治学・政治史)が設置された。

附属図書館が創立以来、鋭意、沖縄研究資料

を収集してきたが、図書館だけでは収集できない側面もある。種々の沖縄研究資料が、新たに発掘されているのを見聞するとき、沖縄研究の中心となるべき琉球大学が、積極的にこれらの資料を収集すべきであると考えた。(「びぶりお」15巻4号、「図書館年報」(昭和56年度)参照)

なお、現在は「琉球大学附属図書館沖縄研究資料調査収集専門委員会」の名称のもとに、毎年、沖縄研究資料の大型収集計画を行っている。

◎第6回九州地区国立大学図書館協議会(当番館:琉球大学、会場:那覇市寄宮ゆうな荘)

国立移行後、琉球大学は九州ブロックに復帰し、昭和48年(1973)5月10日長崎グラバー亭で開かれた第3回九州地区国立大学図書館協議会及び翌11日長崎大学で開催された第24回九州地区大学図書館協議会に初参加した。

3年後、1976年(昭和51)4月22日、ゆうな荘(那覇)の5階大ホールで九州地区国立大学12校の館長、事務部長(九大、鹿大)、課長(九大)、事務長25名が参加し、第6回九州地区国立大学図書館協議会総会が開催された。本学が当番館になった初めての会議であった。伊江朝章館長を議長に選出、議題は①外国学術雑誌の確保のための予算処置について、②大学の研究・教育に対する図書館の在り方とその改革について、③図書館の増員について、④課長(事務長)補佐の増設について、⑤指定図書購入費予算の復活について、⑥役員館について、であった。会議終了後、6時より同ゆうな荘で公私立大学の館長、部課長、事務長を含めて懇親会が行われた。4月とはいえ、既に初夏を思わせる気候であった。いまでは考えにくいことであるが、日頃冷房機の騒音で会場周辺の住民から苦情を受けていたホテルの関係者が大会初日の夜に冷房機を止めたため、投宿した参加者にご迷惑をお掛けし、窓を明ければ蚊が飛んでくるため蒸し暑い夜を過ごさせた。翌日ホテル側と交渉し、2日目から冷房機が作動したと聞いて安堵したが、同時に今後の大会運営の教訓となった。

◎第27回九州地区大学図書館協議会

翌23日は九州地区の国公立の大学の館長、部課長、事務長など52名が参加して、新規加入

館の承認、幹事館報告など終了後、全体総会に移り、九州大学の館長を議長に議題は、(イ)「学術雑誌総合目録 人文科学欧文編」、(ロ)大学図書館間ネットワークの具体化について、(ハ)会費等の値上げについて、(ニ)総会当番館に対する援助費の増額と協議会会費の値上げについて、であった。



第6回九州地区国立大学図書館協議会風景



第27回九州地区大学図書館協議会風景

◎附属図書館の電算化

図書館の電算化は昭和47年の本土復帰以前から講演等で本学図書館へ招聘した講師等の助言・支援もあって、将来の図書館電算化に向けスタッフ養成に取り組んできた。しかし本格的に活動を開始したのは昭和49年に図書館職員で構成するコンピュータ研究会を設置した時からである。昭和49年10月3日に第1回コンピュータ研究会を図書館館長室で開催した。昭和50年2月6日までに6回のコンピュータ研究会を開催したが、その間の昭和49年9月12日に本学理工学部電子計算機室長の山下嵩教授、宮里憲氏(現図書館システム管理係長)を招聘して研修会をもった。昭和51年には計算機センターの協力で雑誌の各種リストをFACOM230-15で出力、昭和52年には同機を用いて学術雑誌所蔵目録(欧文編)を編

集した。昭和52年8月11日には第1回夏季館内職員コンピュータ研修会を16日まで理工学部機電ビル内の計算機センターで開催、第2回目は8月23日から24日まで、第3回を8月25日から26日まで開催、研修を受けている。

◎日米友好基金

アメリカ研究図書については本土復帰(昭和47年5月)以前は本シリーズ②でも紹介したように、1960年以来アジア財団の援助で逐次整備されてきたが、国立移管後は昭和52年1月17日付で、日米友好基金との協力で日本の大学におけるアメリカ研究コレクションを充実するための機関として琉球大学が指定されたとの文書がアジア財団日本事務所(連絡代表ジェームス L. スチュアート氏)から学長宛に届いた。同年9月14日アジア財団の日米友好基金訪問コンサルタントで、ユタ大学教授のウィリアム・マルータ博士が来館し、日米友好基金の本学に対する援助等について懇談した。昭和53年2月2日アジア財団日本事務所から職員が来館、日米友好基金によるアメリカ研究図書についての話合いが館長室でもたれた。同年3月2日にアジア財団日本事務所(連絡代表ジェームス L. スチュアート氏)から寄贈図書1,541冊が本学へ届いた。さらにアメリカ研究資料の充実を図るため、第1回アメリカ研究図書選択委員会が1979年(昭和54年)2月20日に開催された。委員は本学の法文、教育、教養、短大の各学部より選出された9名の教官で構成され、アメリカ研究の各分野にまたがった。委員長に法文学部の宮里政玄教授を選出した。

◎全学スト

1972年の沖縄の日本復帰が目前になるにつれて、沖縄返還協定の内容をめぐる社会は激動、学生運動も一段と激しさを増したようである。又、授業料値上げ反対をめぐる大学側と学生側の団交は国立移行後も続いた(「琉大風土記」参照)。沖縄の本土復帰(昭和47年5月15日)前の1969年より沖縄返還協定批准反対の学生自治会等による全学ストが度々繰り返され、その度に図書館玄関に机、腰掛などでバリケードが敷かれ、図書館の閉館を余儀なくされた。全学

ストによる図書館への影響は「琉球大学附属図書館三十周年略年表」に記載されただけでも下記の通りである。

- 1969年 2月 3日 図書館封鎖 3~4日。ゼネスト(県民大会)
- ◇ 4月26日 ◇ 28日まで。
- ◇ 11月14日 全学スト、図書館封鎖
- 1970年 5月23日 全学バリスト、図書館封鎖される。
- ◇ 5月29日 全学スト、図書館封鎖される。
- ◇ 6月19日 全学バリスト、図書館封鎖される。23日まで。
- 1971年 4月14日 学生自治会により図書館封鎖される。15日まで。
- ◇ 5月19日 図書館封鎖される(ゼネスト)
- ◇ 6月15日 図書館封鎖される。17日まで。
- ◇ 11月10日 沖縄返還協定批准反対ゼネストがあり図書館は休館した。
- 1972年10月28日 学内封鎖
- 1973年 1月19日 学生自治会により図書館封鎖される。
- ◇ 1月25日 学生自治会により図書館封鎖 26日までバリスト
- 1974年 4月26日 学生自治会により図書館封鎖
- 1976年 2月10日 学生自治会によりバリスト、図書館封鎖される。12日まで。

◎沖縄関係医学保健学資料収集委員会

委員会の名称を「沖縄関係医学保健学資料収集委員会」として、日本民族衛生学会沖縄支部、琉球大学保健学部、医師会、看護協会、沖縄県環境保健部、沖縄県生活福祉部、沖縄県教育委員会、琉球大学附属図書館が構成員となり、昭和53年2月10日に設置された。収集資料は琉球大学附属図書館へ寄贈されることになり、資料収集は、昭和56年10月6日に同委員会が解散されるまで、毎年継続された。同委員会は、収集資料の目録を発行し、資料の管理は医学部分館が行うことを決定した。また、USCAR(米国民政府)資料や終戦直後の群島政府時代の資料収集については、追跡調査が今後の課題となった。(昭和58年12月10日発行「沖縄関係医学保健学資料収集目録」より参照) つづく

(とよひら ともみ：図書館専門員)



図書館封鎖風景

沖縄県大学図書館協議会総会及び講演会が開かれる

第26回沖縄県大学図書館協議会総会及び講演会が、7月15日に沖縄女子短期大学を会場として開催された。

当日は、加盟大学(沖縄国際大学、沖縄大学、沖縄キリスト教短期大学、沖縄女子短期大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、琉球大学)の図書館長を始め、多数の図書館職員が出席した。

幹事館の金城昭夫琉球大学附属図書館長の挨拶につづき、沖縄女子短期大学の平得慶子図書館長が議長に選出されたのち、議事にはいり平成10年度の事業計画等が決定された。

その他として、平成12年(西暦2000年)に、第86回の「全国図書館大会」が沖縄県で開催されることになり、沖縄県立図書館に「平成12年

度(第86回)全国図書館大会開催準備委員会」の事務局が置かれたこと、副委員長に金城昭夫琉球大学附属図書館長が就任されたこと、委員2名の推薦依頼があったこと等が報告された。審議の結果委員に、嘉手川繁三沖縄国際大学図書館長、漢那憲治沖縄キリスト教短期大学図書館長を選出した。

総会終了後、沖縄大学の図書館長山門健一教授による、「沖縄のまちづくり」と題した記念講演会が行われた。沖縄に分布する珍しい植物写真のスライドを多用し、植物を活用したシマおこし、まちづくりを進めているというユニークな講演であった。

海外衛星放送受信局一覧表

附属図書館3階の留学生コーナーに、海外衛星放送受信システムが設置されています。サービス開始当初(5月頃)は、約40チャンネルしか、視聴できませんでした。その後、チャンネル設定作業を鋭意行い、8月末には131チャンネルが視聴可能となりました。

以下の表は、現在視聴可能な衛星放送チャンネルの一覧です。ご活用ください。

(A) BS/VHF国内放送局			(C) PALAPA-C2		
番号	チャンネル	局名	番号	チャンネル	局名(国名)
1	2ch	NHK 総合放送	1	1ch	GUJARAT TV(インド)
2	6ch	FEN 米軍放送	2	2ch	TVRI(インドネシア)
3	8ch	OTV 沖縄テレビ	3	3ch	ANG(オーストラリア)
4	10ch	RBC 琉球放送	4	5ch	SC TV(インドネシア)
5	12ch	NHK 教育放送	5	6ch	M TV(香港)
6	28ch	琉球朝日放送	6	7ch	TV5(フランス)
7	BS-7	NHK 総合放送	7	8ch	CNBC(香港)
8	BS-11	NHK 教育放送	8	9ch	TPI LANGSUNG(インドネシア)
(B) ASIASAT-1			9	10ch	R TV(ブルネイ)
番号	チャンネル	局名(国名)	10	11ch	TV INDOSIAR(インドネシア)
1	1ch	RCTI(インドネシア)	11	12ch	AN TV(インドネシア)
2	2ch	TVRI(インドネシア)	12	13ch	CNN(香港)
3	3ch	GUJARAT TV(インド)	13	14ch	TV3(マレーシア)
4	4ch	ANG(オーストラリア)	(D) ASIASAT-2		
5	5ch	SC TV(インドネシア)	番号	チャンネル	局名(国名)
6	6ch	CNBC(香港)	1	0101ch	湖北電視台(中国)
7	7ch	MTV(香港)	2	0201ch	湖南電視台1(中国)
8	8ch	TV5(フランス)	3	0202ch	湖南電視台2(中国)
9	9ch	ワールドスポーツ(香港)	4	0301ch	広東電視台1(中国)
10	10ch	ANTEVE(インドネシア)	5	0302ch	広東電視台2(中国)
11	11ch	TVINDOSIAR(インドネシア)	6	0401ch	内モンゴ電視台1(中国)
12	17ch	CCTV(中国)	7	0402ch	内モンゴ電視台2(中国)
13	18ch	NTV(中国)	8	0501ch	WTN LONDON(音声サービス)
14	20ch	CCTV-1(中国)	9	0601ch	LNTV遼寧電視台(中国)
15	21ch	CCTV-2(中国)	10	0701ch	江西電視台1(中国)
16	22ch	CCTV(中国)	11	0702ch	江西電視台2(中国)
17	23ch	スタースポーツ(香港)	12	0801ch	東南電視台1(中国)
18	24ch	チャンネルV(香港)	13	0802ch	東南電視台2(中国)
19	26ch	フェニックスTV(台湾)	14	0901ch	青海電視台(中国)
20	27ch	スターワールド(香港)	15	1001ch	河南電視台(中国)
21	28ch	CCTV-4(中国)	16	1101ch	APTV(イギリス)
22	29ch	EGYPTIAN TV(エジプト)	17	1401ch	LAOTV3
23	32ch	ワールドネット(アラビア?)	18	2001ch	DW-TV(ドイツ)
24	33ch	CCTV-4(中国)	19	2002ch	MCM
			20	2003ch	RAITV(イタリア)

海外衛星放送受信局一覧表(続き)

(D) ASIASAT-2 (続き)			(E) THAICOM-3 (続き)		
番号	チャンネル	局名(国名)	番号	チャンネル	局名(国名)
21	2004ch	TVE(スペイン)	17	20ch	ALT(ロシア)
22	2005ch	TV 5 (フランス)	18	23ch	タイコム3テストパターン
23	2006ch	DWRai(ドイツ)(音声サービス)	19	24ch	タイTV 7 ch(タイ)
24	2007ch	DWRai 2 & 3 (東欧)(音声サービス)	20	25ch	TSN(インド)
25	2008ch	DWRai 4 & 5 (東欧)(音声サービス)	21	26ch	タイTV 3 ch(タイ)
26	2009ch	YLE/RCI(東欧?)(音声サービス)	22	27ch	タイTV 9 ch(タイ)
27	2010ch	WRN(北欧)(音声サービス)	23	28ch	CNBCASIS(香港)
28	2011ch	REE(イタリア)(音声サービス)	24	29ch	SONYTV(インド)
29	2012ch	RFI-1ATUALITE INTERNATIONAL(フランス)	25	30ch	CNN(香港)
30	2013ch	RFI-2 ASIAN LANGUAGE(中国)(音声サービス)	26	31ch	CARTOON NETWORK(英語)
31	2014ch	RFIMusic(音声サービス)	27	32ch	MTV(香港)
32	2015ch	RNW(ドイツ)(音声サービス)	28	33ch	CNBCASIA(香港)
33	2016ch	RAI RADIO INTERNATIONAL(イタリア)(音声サービス)	29	390ch	RCT19ch(タイ)
34	2017ch	NN(イタリア)(音声サービス)	30	391ch	タイTV 3 ch(タイ)
35	2018ch	SRI(ドイツ)(音声サービス)	31	392ch	TV 5 (フランス)
(E) THAICOM-3			32	393ch	RTVSUBOK
番号	チャンネル	局名(国名)	33	394ch	MTV(香港)
1	1 ch	タイTV 3 ch(タイ)	34	395ch	TV INDOSIAR(インドネシア)
2	2 ch	TV 5 (フランス)	35	396ch	CNBC(香港)
3	3 ch	MTV(香港)	36	398ch	CNN(香港)
4	4 ch	CNBC(香港)	37	399ch	TVRI(インドネシア)
5	5 ch	GUJARATTV(インド)	38	400ch	RCT19ch(タイ)
6	6 ch	スタースポーツ(香港)	(F) C S放送局		
7	7 ch	チャンネルV(香港)	番号	チャンネル	局名(国名)
8	9 ch	フェニックスTV(台湾)	1	200ch	番組案内
9	10ch	スターワールド(香港)	2	205ch	放送大学
10	11ch	CCTV-4(中国)	3	210ch	日本テレビ
11	12ch	EGYPTIAN TV(エジプト)	4	215ch	ゲーム情報(デジキューブ)
12	14ch	ワールドネット(香港)	5	216ch	生活情報(ベターライフ)
13	15ch	CCTV-4(中国)	6	217ch	TVショッピングネットワーク
14	16ch	RTP(東欧)	7	218ch	車情報
15	18ch	DBPTEL(ロシア)	8	220ch	ショップチャンネル
16	19ch	TBbMOCKBA(ロシア)	9	221ch	もっと!ショッピングチャンネル
			10	222ch	ショッピングチャンネル
			11	223ch	コジマショップワールド
			12	230ch	東進ワールド(東進ドリームネット)
			13	283ch	TVじゅまる

NACISIS-IR 地域講習会開催

去る7月16日、学術情報センターと琉球大学附属図書館共催により、学術情報センターの小陳研究者情報係長を講師に招き、総合情報処理センターを会場にして、NACISIS-IR地域講習会を開催した。今回の講習会には、沖縄地区6大学の図書館職員13名(内、1名はオブザーバ参加)、琉球大学の研究者26名(内、4名はオブザーバ参加)の、計39名の参加者があり、丸1日、全員熱心に情報検索の基本技術の習得に汗をながした。閉講式においては、全員に修了証書が手渡された。

このように多くの研究者の参加があった背景としては、琉球大学は規模こそ中規模の大学ではあるが、附属図書館では14種類のCD-ROMデータベースをネットワーク経由でサービスしていること、また、それらの有効活用のために

データベースの検索方法等の情報リテラシー教育に力をいれていること(平成9年度は105回もの講習会を開催:これはおそらく大学図書館では日本一)などにより、データベースに対する学内の関心が高いことが考えられる。



講習会風景

西原南小学校3年生(69名)の附属図書館見学

去る7月10日(金)9:00～11:00、西原南小学校3年生1組、2組の計69名(他に引率教諭2名)が社会勉強の一貫として、附属図書館見学のため来館した。

小学校3年生は、端末機台数の関係から、2グループ(Aグループ、9:00～10:00、Bグループ、10:00～11:00)に分かれ、時間差で、2階の情報検索コーナーの端末機15台を実際に操作し、図書館のホームページから、図書館が提供している電子情報資料の中で、小学校低学年生にも興味を持てる大正初期の沖縄の写真を検索し、職員の説明を受けながら、インターネットの体験学習を行った。

続いて、3階の留学生コーナーに設置してある「海外衛星放送受信システム」では、6台のモニターの映像をリモコンと専用ヘッドホンを使って視聴した。

また、BDSシステム(資料無断持ち出し防止処置)や開架閲覧室の学習風景、資料の詰まった書庫等を見学、最後は図書館のシンボルであ

る玄関先の湯川秀樹博士揮毫の「学而不厭」の碑について説明を受け、図書館を後にした。

後日、見学のお礼として届けられた、手作りの「見学感想文集」から、生き生きと、利口そうな瞳を輝かしていた児童達の感激した様子が窺え、汗だくになって対応に追われた9人の職員も報われた思いがした。



インターネットの体験学習風景

沖縄関係資料新着案内

1998年5月～1998年7月

0類 総 記

1. 中山詩文集：校訂本／上里賢一編 福岡：
九州大学出版会，1998. 4 K099. 7 -UE

1類 哲 学

1. アジア魔除け曼荼羅／中城正堯著 東京：
NTT出版，1997. 3 (気球の本) K163. 4 -NA
2. 沖縄シャーマニズムの社会心理学的研究
／大橋英寿著 東京：弘文堂，1998. 4
K163. 9 -OH

2類 歴 史

1. 芸能，2／沖縄県立図書館史料編集室編
[那覇]：沖縄県教育委員会，1998. 2 (沖縄
県史料，前近代8,11) K200. 8 -OK
2. 首里城の起源を探る：エッセイで楽しむ沖
縄の歴史再発見／宮野賢吉著 南風原町(沖
縄県)：那覇出版社(制作)，1998. 3 K201-MI
3. 占領下・戦後初期沖縄郵便史／斎藤彰男編
倉敷：斎藤彰男，1997. 5 K201-SA
4. 新しい琉球史像：安良城盛昭先生追悼論集
／高良倉吉，豊見山和行，真栄平房昭編 宜
野湾：榕樹社，宜野湾：緑林堂(発売)，1996.10
(琉球弧叢書，3) K201-TA
5. 清代琉球國王表奏文書選録／中國第一歴史
トウ案館編 合肥：黄山書社出版，1997.10
K201.18-CH
6. ロックとコザ／[沖縄市]企画部平和文化
振興課編；改訂版 沖縄(沖縄県)：沖縄市
役所，南風原町(沖縄県)：那覇出版社(発
売)，1998. 3 (沖縄市史資料集，4)
K225-OK
7. 美里からの戦さ世(イクサユー)証言／
[沖縄市]企画部平和文化振興課編 沖縄
(沖縄県)：沖縄市役所，南風原町(沖縄県)：
那覇出版社，1998. 3 (沖縄市史資料集，6)
K225-OK
8. 嘉手納町史，資料編4／嘉手納町史編纂委
員会 嘉手納町(沖縄県)：嘉手納町，1998. 3
K226-KA

9. 宮古島民台湾遭難事件／宮國文雄著 南風
原町(沖縄県)：那覇出版社，1998. 3 (宮古
島歴史物語，1) K240-MI
10. 平良市史，第9巻：資料編7 御嶽編／平良市
史編さん委員会編 平良：平良市，1994. 3
K241-HI
11. 南島の地名，第5集(1998年)／南島地名研
究センター編 中城村(沖縄県)：南島地名
研究センター，1998. 5 K290.34-NA
12. 朝鮮琉球全圖 [出版地不明]，[出版年不明]
K290.38-CH
13. ゼンリン住宅地図：沖縄県：北中城村・中
城村，1998 北九州：ゼンリン，1998. 4
K290.38-ZE
14. ゼンリン住宅地図：沖縄県：石垣市・竹富
島，1998 北九州：ゼンリン，1998. 5
K290.38-ZE
15. ゼンリン住宅地図：沖縄県：西原町，1998
北九州：ゼンリン，1998. 5 K290.38-ZE
16. ゼンリン住宅地図：沖縄県：与那原町・佐
敷町・知念村，1998 北九州：ゼンリン，199
8. 5 K290.38-ZE
17. ゼンリン住宅地図：沖縄県：本部町・今帰
仁村・伊江村，1998 北九州：ゼンリン，1998.
5 K290.38-ZE
18. 沖縄修学旅行ハンドブック：学び・調べ・
考えよう／平和・国際教育研究会編 東京：
平和文化，1997. 6 K290. 9 -HE
19. Exciting Okinawa : An information guid
ebook / edited by Okinawa Prefectural Board
of Education; English ed. Naha : Okinawa
prefecture, 1998. 3 K290. 9 -OK
20. 並里区誌，戦前編／並里区誌編纂室編集
金武町[沖縄県]：並里区事務所，1998. 3
K291-NA
21. 郷土資料事典：ふるさとの文化遺産，47：
沖縄県／ワークス編 北九州：ゼンリン東京：
人文社(発売)，1998. 4 K291.09-KY
22. 今帰仁のムラ・シマ／沖縄県今帰仁村歴史
資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県)：沖縄

- 県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1990. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V.1) K291. 3 -NA
23. 今帰仁の歴史/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1993. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 3) K291. 3 -NA
24. すくみち, 第17号~25号/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1994. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 4) K291. 3 -NA
25. 今帰仁の歴史と文化: 今帰仁村歴史文化センター展示案内/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1995. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 5) K291. 3 -NA
26. すくみち, 第26号~29号/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1996. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 6) K291. 3 -NA
27. 今帰仁の地名: 字名と小字/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1997. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 7) K291. 3 -NA
28. すくみち, 第30号~32号/沖縄県今帰仁村歴史資料館準備室編 今帰仁村(沖縄県): 沖縄県今帰仁村教育委員会歴史資料館準備室, 1998. 3 (なきじん研究: 今帰仁の自然と歴史と文化, V. 8) K291. 3 -NA
29. 喜名誌 読谷村(沖縄県): 喜名公民館, 1998. 2 K292-KI
- 3類 社会科学
1. 世界が変わる沖縄が変わる: 平和への提言二〇と沖縄維新二〇/嘉数学著 那覇: ポーダーインク, 1998. 6 K302-KA
2. 沖縄文化研究, 24/法政大学沖縄文化研究所編 東京: 法政大学沖縄文化研究所, 1998. 3 (法政大学沖縄文化研究所紀要, 24) K302-OK
3. 現代沖縄の政治と社会: 1996年衆議院選挙前後の政治意識分析を中心に/江上能義研究代表[西原町(沖縄県)]: [江上能義], 1997. 3 K312-EG
4. GHQ/SCAP文書目録: 沖縄関係資料/沖縄県公文書館編 南風原町(沖縄県): 沖縄県公文書館, 1998. 3 K312.031-OK
5. 米国民政府ニュース・リリース及び関連資料目録/沖縄県公文書館編 南風原町(沖縄県): 沖縄県公文書館, 1998. 3 K313.19031-OK
6. 復帰二十五年の回想/宮里松正著 那覇: 沖縄タイムス社, 1998. 4 K318. 2 -MI
7. 沖縄の米軍基地, 平成10年3月/沖縄県総務部知事公室 那覇: 沖縄県総務部, 1998. 3 K319-OK
8. 戦後沖縄のキーワード: 「基地の島」の成り立ちと今/松田米雄編 具志川: ゆい出版, 1998. 6 K319. 8 -MA
9. オキナワと憲法: 問い続けるもの/仲地博, 水島朝穂編 京都: 法律文化社, 1998. 6 K323-NA
10. 犯罪学と地域社会: 人間学と行為者刑法学の交叉研究/水野益継著 東京: 八千代出版, 1998. 5 K326. 3 -MI
11. 行為者刑法学: 総論・各論への体系写像/水野益継著 東京: 八千代出版, 1998. 5 K326. 3 -MI
12. かたぶい: つまずきし人らよ子らよ、その母たちよ/垣花鷹志著 那覇: 垣花鷹志, 1998. 2 K326.48-KA
13. アスタマニャーナ・また明日ね: 青年海外協力隊員 ホンデュラス通信/島袋保子, 島袋あゆみ著 南風原町(沖縄県): 那覇出版社, 1998. 6 K333. 8 -SH
14. 沖縄移住地: ポリビアの大地とともに/具志堅興貞著; 照井裕編 那覇: 沖縄タイムス社, 1998. 6 K334. 4 -GU
15. こどものいる風景: 沖縄社会を見つめる/沖縄タイムス社編 那覇: 沖縄タイムス社, 1998. 6 (沖縄タイムス・ブックレット, 3) K369.13-OK
16. 沖縄県における地域保健福祉に関するニ-

ズ調査報告書／沖縄県立総合精神保健福祉センター [編] 南風原町 (沖縄県) : 沖縄県立総合精神保健福祉センター, 1997. 3

K369.28-OK

17. 教師のつぶやき : 子どもたちの健やかな成長を願って : 実践版 / 玉城時子著 南風原町 (沖縄県) : 那覇出版社, 1998. 4 K370.4-TA

18. 我等甲辰尋常小学校 : 昭和十三年卒業生 / [甲辰尋常小学校] 昭和13年卒業生 [編] [出版地不明] : [甲辰尋常小学校昭和13年卒業生], [1997] K376.2-KO

19. ばがなつ : 登小一五会記念誌 / 登小一五会誌ばがなつ編集委員会編 那覇 : 登小一五会, 1994.11 K376.2-TO

20. 多数派と少数派、民主主義の意味 / ラジモハン・ガンディー著 ; 沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾 : 沖縄国際大学公開講座委員会, 那覇 : 東洋企画 (発売), 1998. 3 (沖縄大ブックレット, No. 4) K379.4-OK

21. 南九州民俗誌 / 村田熙著 東京 : 第一書房, 1994. 9 (村田熙選集, 2) K380.8-MU

22. 南九州・薩南諸島の芸能 / 村田熙著 東京 : 第一書房, 1996. 9 (村田熙選集, 4) K380.8-MU

23. 柳田國男全集, 21 / 柳田國男著 東京 : 筑摩書房, 1997.10 K380.8-YA

24. シマの見る夢 : おきなわ民俗学散歩 / 赤嶺政信著 那覇 : ボーダーインク, 1998. 4

K381-AK

25. 海人の世界 / 秋道智弥編著 東京 : 同文館出版, 1998. 3 K384.36-AK

26. 沖縄を識る : 琉球列島の神話と祭り / 比嘉政夫著 佐倉 : 歴史民俗博物館振興会, 1998. 3 (歴博ブックレット, 4) K385-HI

27. 東アジアにおける宗教文化の伝来と受容 / 窪徳忠著 東京 : 第一書房, 1998. 5 (窪徳忠著作集, 6) K385.1-KU

28. 沖縄の季節と行事 / 比嘉朝進著 浦添 : 沖縄総合図書, 1998. 5 K385.8-HI

29. 南島説話生成の研究 : ユタ・英雄・祭儀 / 山下欣一著 東京 : 第一書房, 1998. 5 K388-YA

30. 社会と象徴 : 人類学的アプローチ : 村武精一教授古稀記念論文集 / 大胡欽一 [ほか] 編 東京 : 岩田書院, 1998. 5 K389-MU

31. 沖縄占領米軍犯罪事件帳 : RYUKYUANぶーたぎなサナガベッチの時代 / 天願盛夫編 具志川市 : ぐしかわ文具店, 1998. 4 K392-TE

4類 自然科学

1. 沖縄の気象暦 : 沖縄県下の暦と潮位表, 平成10年 / 日本気象協会沖縄支部編著 那覇 : 日本気象協会沖縄支部, 1997.12 K451.9-NI

2. 沖縄地方におけるメソ気象現象の解析的研究 : 主として雨や風のメソ天気系モデルの確立地方共同研究 那覇 : 沖縄気象台, 1994. 3 K451.91-OK

3. 南の島の昆虫記 / 湊和雄著 浦添 : 沖縄出版, 1998. 7 K486-MI

4. 沖縄の歴史と医療史 / 琉球大学医学部附属地域医療研究センター編 福岡 : 九州大学出版会, 1998. 3 K490.2-RY

5. 命 (ぬち) ぐすい耳 (みみ) ぐすい : 役立ち、得する、医療の話 / 沖縄県医師会編 浦添 : 沖縄県医師協同組合那覇 : ボーダーインク (発売), 1998. 3 K490.4-OK

6. うちな-健康歳時記, 3 / 沖縄県医師会編 浦添 : 沖縄県医師協同組合, 那覇 : ボーダーインク (発売), 1998. 6 K498-OK

7. アロエベラ健康革命宣言 : 薬草王国・沖縄から全国へ / 比屋根清一著 具志川市 : ゆい出版, 1998. 5 K498.3-HI

5類 技術

1. 琉球水道公社文書目録 / 沖縄県公文書館編 南風原町 (沖縄県) : 沖縄県公文書館, 1998. 3 K518.1031-OK

2. 米軍機ハンドブック : U.S.air power, '98 / 松崎豊一編著 東京 : 原書房, 1997.12 K538.7-MA

6類 産業

1. マングローブ入門 : 海に生える緑の森 / 中村武久, 中須賀常雄著 東京 : めこん, 1998. 4 K653.27-NA

2. 琉球の郵便物語 / 金城康全著 那覇 : ボーダーインク, 1998. 5 K693.2-KI

7類 芸 術

1. 与儀達治作品集 那覇：沖縄タイムス社，1998. 3 K723-YO
2. 沖縄返還：1972年前後：写真集／池宮城晃，池宮城拓写真 那覇：池宮商会，1998. 2 K748-IK
3. 沖縄わが故郷／石川文洋写真・文 東京：ルック，1998.4（石川文洋写真集「戦争と平和」Vol.1） K748-IS
4. 南の風：大塚勝久写真集／大塚勝久写真・文那覇：琉球新報社，1998. 7 K748-OT
5. 時の島々／東松照明写真；今福竜太文・編 東京：岩波書店，1998. 1 K748-TO
6. 山口正久遺作写真集：過ぎ去りし旅の風景／山口正久著 鹿児島：山口麗子，1997 K748-YA
7. 音の力「沖縄」，奄美／八重山／逆流編／De Musik Inter.編 東京：インパクト出版会東京：イザラ書房（発売），1998. 5 - K762-DE
8. 音の力「沖縄」，コザ沸騰編／DeMusik Inter.編 東京：インパクト出版会東京：イザラ書房（発売），1998. 4 K762.25-DE
9. 世界に躍進する沖縄空手・古武道：沖縄空手・古武道世界大会へのあゆみ／守礼堂編 [那覇市]：[守礼堂]，1997. 8 K789. 2 -SH
- 読谷村（沖縄県）：読谷村文化協会，1998. 3 K913-YO
4. うりずんの風：歌集／謝花秀子著 那覇：黄金花表現の会，1997.12 K915-JY
5. 遠い風：詩集／中里友豪〔著〕那覇：ボーダーインク，1998. 4 K917-NA
6. 沖縄の家族／浅川純著 東京：実業之日本社，1998. 3 K930-AS
7. 海鳴りに訊け／風間一輝著 東京：角川書店，1998. 2 K930-KA
8. ジャンルを越えて：米須興文教授退官記念論文集／米須興文教授退官記念論文集刊行会〔編〕西原町（沖縄県）：米須興文教授退官記念論文集刊行会東京：英宝社（発売），1998. 4 K930-KO
9. 山のサバニ／大城貞俊著 南風原町（沖縄県）：那覇出版社，1998. 6 K930-OS
10. 星の棲む島／島尾伸三著 東京：岩波書店，1998. 3 K930-SH
11. 沖縄独立す：北東アジアに軍事危機が迫る／柘植久慶著 東京：ベストセラーズ，1998. 1 K930-TS
12. 沖縄の空の下で：日常のきらめき／町田宗順著 南風原町（沖縄県）：那覇出版社（発売），1998. 3 K940-MA
13. 狂った季節：戦場彷徨、そして--。／船越義彰著 那覇：ニライ社下関：新日本教育図書（発売），1998. 6 K950-FU
14. 戦争と平和のはざままで：相思樹会の軌跡／ひめゆり同窓会相思樹会〔編〕那覇：ひめゆり同窓会相思樹会，1998. 6 K950-HI
15. 旗頭（はたがしら）／沖縄エッセイストクラブ〔編〕〔那覇〕：沖縄エッセイストクラブ，1998. 4（沖縄エッセイストクラブ作品集，15） K950-OK
16. 西表島（イリオモテジマ）ヤマネコ騒動記／横塚眞己人著 東京：小学館，1998. 5（小学館文庫） K950-YO
17. ヤポネシアちゃんぷるー／吉村喜彦文；垂見健吾写真 東京：アスキー東京：アスペクト（発売），1998. 4 K950-YO

8類 語 学

1. ウチナーグチ（沖縄方言）に対する意識調査報告書：変わりゆくウチナーグチ意識・外からみたウチナーグチ／大野眞男，外間美奈子〔共〕著 盛岡：岩手大学教育学部国語学研究室，1995. 7 K880-ON

9類 文 学

1. 古代文学研究史／古橋信孝，三浦佑之，森朝男編集 東京：勉誠社，1998. 4（古代文学講座，12） K900-FU
 2. 伊波南哲の世界：MEMORY OF NANTETSU／「伊波南哲の世界」刊行委員会〔編〕〔石垣〕：記念誌「伊波南哲の世界」刊行委員会，1998. 6 K902-IB
 3. ゆしやついる：女流歌人吉屋チルーシンポジウム報告書／読谷村文化協会事務局編集
- 注）各資料末尾の記号は請求記号です。

本学教官著作寄贈図書案内

1998年5月～1998年7月

★教育学部 市井雅哉

ストレス対処法／ドナルド・マイケンバウム
著；根建金男,市井雅哉監訳 東京：講談社, 19
94. 4 (講談社現代新書, 1198) 498.39-ME

★教育学部 水野益継

犯罪学と地域社会：人間学と行為者刑法学の
交叉研究／水野益継著 東京：八千代出版,
1998. 5 K326. 3 -MI

行為者刑法学：総論・各論への体系写像／水
野益継著 東京：八千代出版, 1998. 5
K326. 3 -MI

★法文学部 仲地博

オキナワと憲法：問い続けるもの／仲地博,
水島朝穂編 京都：法律文化社, 1998. 6
K323-NA

★法文学部 赤嶺政信

シマの見る夢：おきなわ民俗学散歩／赤嶺政
信著 那覇：ポーターインク, 1998. 4
K381-AK

★医学部 岩政輝男

沖縄の疾病像を探る：新しい病理学の試み／
岩政輝男, 町並陸生編著 福岡：九州大学出版
会, 1998. 2 WB720

★医学部附属地域医療センター

沖縄の歴史と医療史／琉球大学医学部附属地
域医療研究センター編 福岡：九州大学出版会,
1998. 3 K490.2-RY/WZ80

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

お知らせ

◎ 秋季休業期間の開館時間

9月23日(水)から10月4日(日)まで秋季休業

本館 平日 8:30～17:00 土、日曜日 閉館

医学部分館 平日 8:30～22:00 土、日曜日 13:00～17:00

◎ 大学行事・祝日に伴う休館の案内

琉大祭 11月14日(土)～15日(日)は本館のみ閉館

祝日の休館 10月10日(土)、11月3日(火)、23日(月)及び

12月23日(水)は本館、医学部分館とも閉館

◎ 冬季休業期間の開館時間

12月25日(金)から1月6日(水)まで冬季休業

本館、医学部分館とも 平日 8:30～17:00 土、日曜日 閉館

但し、年末年始(12月28日～1月4日)は休館です。

※ 冬季休業に伴う長期貸出開始は12月11日からとなります。(返却日は1月16日)

※ 本館では当月、翌月の開館案内(カレンダー)を入口及び掲示板に掲示しています。
ご注意ください。

また、図書館ホームページの「図書館利用案内」にも開館案内があります。



図書館事情

[会議]

◎第219回琉球大学附属図書館運営委員会

日 時：平成10年7月7日（火）

15：00～17：00

場 所：附属図書館会議室

[協議事項]

- 1) 開館時間の延長及び館内整理日（休館）の新設について

[報告事項]

- 1) 平成10年度九州地区国立大学図書館協議会総会について
- 2) 平成10年度九州地区大学図書館協議会総会について
- 3) 平成10年度国立大学大学図書館事務（部）課長会議について
- 4) 第45回（平成10年度）国立大学図書館協議会総会について
- 5) 附属図書館自己点検・評価報告書（No. 2）の発行について
- 6) 附属図書館研究開発室の発足（4/1）について
- 7) CD-ROM資料購入費に係る予算要求について
- 8) 平成10年度文部省科学研究費補助金の採択について
- 9) 「図書館学術資料提供システム」のオープンセレモニーについて

その他

- ①平成11年度歳出予算概算要求
- ②平成10年度大型コレクション収集計画について
- ③平成10年度自然科学系図書資料収集計画について
- ④平成10年度沖縄関係文献資料購入計画について
- ⑤図書館ボランティアの再募集について

◎第34回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日 時：平成9年12月8日（月）

15：15～16：15

場 所：附属図書館小会議室
（ボランティア控室）

[協議事項]

- 1) 「次年度（平成10年度）沖縄研究資料調査収集」について
- 2) その他

◎第35回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日 時：平成10年4月16日（木）

15：10～16：10

場 所：附属図書館会議室

[協議事項]

- 1) 「平成10年度沖縄関係文献資料保存事業経費」の要求について
- 2) 委員の改選について
- 3) その他

◎第36回沖縄研究資料調査収集専門委員会

日 時：平成10年5月18日（月）

15：15～15：50

場 所：附属図書館会議室

[協議事項]

- 1) 「平成10年度沖縄関係文献資料購入希望調査」について
- 2) その他

[講演会]

◎平成10年度第1回沖縄県大学図書館協議会講演会

日 時：平成10年7月15日（水）

16：30～17：50

場 所：沖縄女子短期大学記念館ホール

講 師：山門健一（沖縄大学図書館長）

演 題：「沖縄のまちづくり」

出席者：沖縄県大学図書館協議会加盟館

7館 38名

[講習会]

◎職員向けホームページ講習会

日 時：平成9年10月15日（水）

11：00～12：00

場 所：附属図書館3階 ニューメディア室

講 師：細戸康治 情報管理課長

受講者：図書館職員、非常勤含めて合計18名

◎職員向け電子メール講習会

日 時：平成10年3月16日（月）

11：00～12：00

場 所：附属図書館2階 情報検索コーナー

講師：細戸康治 情報管理課長

受講者：図書館職員、非常勤含めて合計18名

◎職員向けホームページ講習会

日時：平成10年7月13日（月）

9：30～12：20

場所：附属図書館 2階 情報検索コーナー

講師：松下彰良 情報サービス課長

受講者：図書館職員12名、ボランティア3名、
合計15名



職員講習会風景

医学部分館だより

【会議】

◎第38回医学部分館運営委員会

日時：平成10年7月23日（木）

16：00～17：00

場所：医学部分館会議室

【協議事項】

1. コア・ジャーナルの見直しについて
2. 医学部分館洋雑誌（1975年以前）の本館への移送について
3. 開館時間の延長及び館内整理日（休館日）の設置について

【報告事項】

1. 附属図書館自己点検・評価報告書（第2回目）の発行について
2. 附属図書館調査研究開発室の発足（4/1）について
3. 平成10年度文部省科学研究費補助金の採択について
4. CD-ROM資料購入費に係る予算要求について
5. 「図書館学術資料提供システム」について

◎第39回医学部分館運営委員会

日時：平成10年9月1日（火）

16：00～17：00

場所：医学部分館会議室

【協議事項】

1. コア・ジャーナルの見直しについて
審議の結果、平成11年度の外国雑誌は予算の関係上、新規購読は取りやめ、現在購読中の外国雑誌のうち、76誌が中止

することになった。

【報告事項】

1. 第46回九州地区医学図書館協議会総会について
2. 医学部分館洋雑誌（1975年以前）の本館への移送について（8/10-8/20）

◎第46回九州地区医学図書館協議会総会

日時：平成10年8月27日（木）

【協議事項】

1. 第69回日本医学図書館協議会総会報告及び平成10年度事業計画について
2. 実行委員会報告及び組織委員会発足に向けて
3. 外国雑誌購入経費高騰にともなう中止状況及び対策について
外国雑誌の値上がりによる購入雑誌の対応について
4. 電子ジャーナルへの対応について
5. 九州地区医学図書館員セミナーの在り方について
6. 第一薬科大学退会届の取り扱いについて

【確認事項】

1. 九州地区医学図書館協議会総会次期当番館について
2. 九州地区医学図書館セミナーについて

【承合事項】

1. 医学・医療情報サービスにおける現状と問題点について

★誤植訂正 1.

前号(N.119)の P.23 に掲載した附属図書館

医学部運営委員の砂川洋子氏の職名は教授の誤りでした。

★誤植訂正 2.

前号(N.119)の P.24 に掲載した第9代医学部分館長武藤良弘教授の略歴事項に誤りがありましたので、下記の通り訂正します。

【武藤良弘分館長略歴】

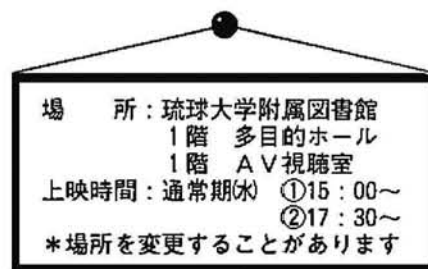
医学博士 専門分野：消化器外科学
 1963(昭和38)年 長崎大学医学部医学科卒業
 1966(昭和41)年 長崎大学医学部助手
 1968(昭和43)年 〃 〃 附属病院助手
 1969(昭和44)年 長崎大学医学部附属病院講師

〃 Oklahoma University Medical Center(米国), Cytopathology の research fellow(2ケ年間)

1973(昭和48)年 浜松医療センター外科勤務
 1982(昭和57)年 琉球大学医学部助教授
 1988(昭和63)年 〃 〃 教授
 1989(平成元年) 〃 〃 附属病院救急部長併任

★寄贈図書

本学保健学科第26期卒業生(1998年3月卒業)より、新刊和図書「精神科看護の方法」他30冊の寄贈がありました。2階閲覧室の書架に配架し、閲覧に供しています。



- 10月7日(水) 大学は出たけれど/1929(昭和4)年作品
東京の合唱/1931(昭和6)年作品 105分
- 10月14日(水) 生まれてはみたけれど/1932(昭和7)年作品 90分
- 10月21日(水) 出来ごころ/1933(昭和8)年作品 100分
- 10月28日(水) 浮草物語/1934(昭和9)年作品 85分
- 11月4日(水) 鉄仮面/1929/アメリカ映画 95分
- 11月11日(水) 会議は踊る/1931/ドイツ映画 97分
- 11月18日(水) マタ・ハリ/1931/アメリカ映画 89分
- 11月25日(水) ノートルダムのせむし男/1923/アメリカ映画 96分
- 12月2日(水) 西部戦線異常なし/1930/アメリカ映画 129分
- 12月9日(水) 第三の男/1949/アメリカ映画 120分
- 12月16日(水) 愛と青春の旅だち/1982/アメリカ映画 124分
- 12月24日(木) 第九交響楽/1936/ドイツ映画 98分

※ 映写会に関するお問い合わせ・ご要望は、図書館資料サービス係まで Tel:(895)8166

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第31巻 第4号 (通巻第120号)
 平成10年10月1日発行

発行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
 電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169

発行人：附属図書館事務部長 石田 常亞 編集：“びぶりお”編集委員会